

最優秀賞（国土交通大臣賞）

作文の部 小学生

『土しゃさいがいを体験して』

防府市立小野小学校
四年生 田中 龍太郎

去年の七月二十一日に、ぼくの家は土しゃさいがいにあいました。

大雨が何日もふっていて、おばあちゃんの部屋から外を見ると土しゃが家に流れてきてうら庭がうもれてしまいました。そして土間にも土しゃが入ってきて家がこわれたらどうしようと思いました。

ぼくは家にむかってどろや木や水が流れてきたのがこわかったです。

今年も大雨がふって学校が三日も休みになりました。また山がくずれたらどうしよう心配になりました。そのことをお母さんに言うと、

「家のうら山にもさぼうダムがあればいいのにね。今は土のうで土しゃをせき止めるようにしているけどこれだけ大雨がふっていると心配だね。」

と言っていました。

去年のさいがいの時は何日もひなんしたり家の中や外のどろをどけたりするのがたいへんでした。でも学校の先生や地いきの人やボランティアの人が土しゃをどけてくれてうれしかったです。

ぼくの家は元通りに住めるようになったけど家に住めなくなって転校した友達もいます。

もう土しゃさいがいは起きてほしくありません。だけど土しゃさいがいを起きないようにすることはできません。

大雨がふるとこわくなります。でも去年さいがいを体験していろいろわかったことがあります。

一つ目はあぶなくなる前に早くひなんすることです。テレビやラジオでどんなじょうたいかを知ってすばやく行動することが大事だと思います。

二つ目は地区の安全な場所ときげんな場所を知っておくことです。おばあちゃんたちがあぶないと言っている所には行かなかたりふだんは安全でも雨がふっているときはきげんな場所をさけてひなんをしたりしようと思います。

三つ目は地いきの人ときょう力することです。どろをどけてもらっただけでなく家を直してもらったり食べ物を持ってきてもらったりいろいろ助けてもらったりしてとてもうれしかったです。今度はぼくが地いきの人を助けてあげたいです。

さいがいが起きる前は土しゃさいがいは自分とはかんけいないと思っていたけれどいつ近くで起きてもおかしくないと思うようになりました。

小野でも多くの人がなくなりました。

今年の七月二十一日に学校でもくとうをしました。もくとうをしながらもうこんなことが二度と起きてほしくないと思いました。

あれから一年たったけれどひがいを受けたままの所もたくさんあります。山にある土石流のあとを見るとあんなにたくさんの木やどろが流れ出たんだ、あのあとはいつまでのこるんだろうかと思っています。その下ではさぼうダムが作られていてあんなにひどいひがいはもう起こらなくてすむんだと思いました。

もうさいがいは起きてほしくありません。そしてこれからぼくはこのさいがいで体験したことをわすれずに、学んだことを生かしていきたいです。